

明治十五年四月八

午五時了

岐阜輕罪裁判所

換事奥宮正治印

乃福井縣令及川候岐阜縣部長
外此之通電按多之形日供電開

明治十五年四月十日 内務卿山田敬義

太政大臣之條實美殿

四月十三日午後第三時三十五分発川俣岐阜縣警部
長ヨリ電報

一昨日以来当地代言人田島鹿之助ヲ自由党ノ旅宿ヘ引
面置キ相原尚聚一件ニ関係ノ疑惑ヲ以テ脅迫訊問中
昨日追徴檢事ハ輿向取調ノ末本人ヨリ保護ヲ願フニ
付昨夜ハ警察本署ニ差置本日帰宿セシメタリ右ハ
決テ怪ムベキ事ニ之レナク其他自由党ヨリ本部工内
通アルトモ事實相違ニ付御安心アリタレ念ノ為メ
御報告ニ及ブ

同日午後第三時二十五分発福井縣令ヨリ
岐阜ノ變ニ付当縣變ルナレ静謐ナリ

内第一号

内務卿上申石黒福井縣令及川俣岐阜縣
警部長より電報寫供回覽候也

明治十五年四月十四日 内閣書記官

三條太政大臣殿

有栖川左大臣殿

岩倉右大臣殿

大木参議殿

山縣参議殿

井上参議殿

松方参議殿

大山参議殿

川村参議殿

福岡参議殿

佐々木参議殿

大正十二年四月十日

内務部山田

右之

左政

四月十七日午後第十時十分大坂府知事ヨリ電報
今年後第六時板垣退助着ス隨行者拾人内一
人刀ヲ持テ二人ハ獵銃ヲ持テリ停車場マテ迎ヒ
ニ出タル者大約百人府廳ヨリ貸シタル馬車ニ乗
リ宿所ニ着ス委細ハ後ヨリ

同日午後第二時十分元口上

本日刊行第二八号立憲政党新聞社説中板
垣退助ハ既ニ彼ノ反對者流ノ兇奸ノカメニ其
兇双ヲ刺ハサマレタリ云々其旨ハハノタイノウ
政府ニ役令レニ政府が刺客ヲ放テリト云フガ
如キ論説ヲ掲載シタルニ付速ニ停止アリタシ

意見ヲ具ス

内第二号

大坂府知事ヨリノ電報ハ既ハ由緒有
リト申サレタリトモ大坂府知事ヨリ
トモ申サレタリトモ由緒有

月大坂版

村大坂版

大坂本多版

山縣本多版

西郷本多版

井上 幸清殿
杉本 幸清殿
木下 幸清殿
中村 幸清殿
神尾 幸清殿
河合 幸清殿

お城大坂村よりノ電波借電院此石
明治五年四月二十日 山田 敬義

有栖川左大臣殿

殿下

力

内務卿上申大阪府ヨリノ電報供面覽
候也

内
外
書
記
官

左大股

右大臣殿

岩倉

大木參議殿

山縣參議殿

松方参議殿

大山参議殿

川村参議殿

福田参議殿

佐々木参議殿

お紙之通に坂府より石川縣書記官より
電報有之に於ては電報に於て
明治十七年四月十七日由務部山田縣長
左政を以て條案美殿



四月十六日午後第一時四十分、石川縣書記官ヨリ
北陸日報ニ相原尚聚ノ兄ハ岩倉右府ノ家来ナレ
ハ誰ツ彼ヲアヤツリシ者アルニ相違ナレ又勅使ノ下向ハ
右府ノ奸策ニテ刺客ノヲ成ラス公衆ノ忿心ヲ緩ク
セシ為メナリト風説スレト記者ハ其無根ハ説ナルヲ
證ストアリ此事民心ニサワル発行傳止ニナリ如何
若シ此電信ニテ尽サスバ事情彼新聞着ノ上御
詮議アリタシ

四月十六日午後三時五十分大坂府知事ヨリ

昨十五日道頓堀恵比須座ノ演説會ヨレズミエ
ゾウ想像力ノ説ニ西南ノ役ニ刺客ヲ放タルトノ
説アリシガ今度板垣ノ件モ又政府が刺客ヲ放テリ
ト想像スト演スルノ末政府於五万圓ノ金ヲ五代友
厚ニ借シテ米ヲ買シメタリシガ友厚ハ其半ヲ上納
シ半ハ既ニ費消政府ノ督責ニ應セザル所以ハ則
チ官守盜ナリ然ルニ政府之レガ罪ヲ摘発セザル
ハ官守盜罪ヲ故縱スル者ナリ此ニ於テ二千有余
ノ聴衆頗ル感動シタルヨリ直チニ中止解散ヲ
命シタリ委細ハ郵便

内第四号

別紙内務卿上申大坂府知事石川縣書記官
ヨリノ電報供回覽候也

明治十五年四月十七日

内務書記官

左大臣殿

右大臣殿

大木参議殿

山縣参議殿

井上参議殿

松方参議殿

大山参議殿

川村参議殿

福岡参議殿

佐水参議殿

自由黨之情况別紙之通探
知照 告 告 電 覧 候 也

明治十五年四月廿七日

内務卿山田顕義



左大臣熾仁親王殿

千
五
百
七
十
七

本ル廿日吉重喜ナル者岐阜ヨリ歸京後藤象次郎ニ
面談ノ摘要左ニ。

一岐阜到着以来ハ勿論板垣カ談地ヲ出發セシ後尚ホ
二日間滞在日夜兎後相原ノ關係者ヲ探偵シタレハ
何分一朝ニ之ヲ探知スルヲ能ハス何トナレハ縣廳ヨリ割
烹店湯屋ノ末ニ至ル迄該事ニ關スル事柄ハ一切外
セシメサル様手ヲ廻ス程ノ有様ナレハナリ加之偶証憑ヲ
探得檢事或ハ警察官ニ告訴スルモ後ニ等閑ニ付スル
ノミナラス只管之ヲ陰蔽スルモノ、如ク實ニ遺憾ノ至リニ
堪ヘス依之談舉ノ原因及ヒ連累者ノ探偵トシテ中嶋
信行ハ暫ク岐阜ニ留ル手筈且ツ滞在党員ハモ
此上一層嚴密ニ注意ス可キ旨ヲ委託シテ歸京セタリ
谷重喜歸京以来党員中重立タルモノ、議決左ニ

一栗原亮一未廣重恭大石正巳等ハ相原ノ取調
ルヤ兼テ公平ナラスト疑惑ヲ抱キ居ル折柄前条
重喜ノ談話以来尚一層ノ感覺ヲ惹起シ到底明
治政府ノ裁判ニテハ党員ハ元ヨリ一般社會ノ満足
スルニ足ラサル豫メ今日ヨリ見ルヘレト虽モ苟モ政府アル
以上ハ法律ノ裁判ハ無余議其賜ニ付テ置ク外致方
ナレ然レモ該裁判ノ公私曲直ハ必ス之ヲ社會ニ訴ヘ
輿論ノ裁判ニ任セント議決セタリ

一党愛以来自由党ノ勢力及テ盛大ニ赴ク有様ナレハ
尚此好機會ニ乘シテ汎ク一般ノ團結ヲ計ラント當
時秘密ノ印刷ニ付テ置タル檄文ヲ一時モ連ニ各地方
部ニ密配シテ更ニ一段人心ヲ振起セシメ且又先般
組織シタル九州ノ改進黨ハ悉ク精神家ノ集合ニシテ

自由党ノ深ク特ニ所ナレハ第一着ニ聯絡ヲ通セサル
ヲ得サレモ九州有志ハ土佐人ヲ厭忌スルノ風アリ何
分一致ス難シ然レモ党愛ニ際シタル非常ノ今日當
リテハ彼我互ニ門戸ヲ張ルノ秋ニ非サレハ我ヨリ降テ
大阪ノ立憲党ヲ媒妁トナレ一致同盟ヲ求メント議決シ
タリ依テ本部ヨリ電人大阪へ派遣スル者ニ當時人
樸中ヨリ多分未廣重恭其樸ニ當ラン

一立憲改進黨ヨリ此頃自由黨ト内外氣脉ヲ通セント
ノ請求アリ自由党ニ於テハ互ニ民權自由ヲ説クナレモ
其内部ヲ解剖スレハ大小論者ノ差違アルヘシ然
レモ兎角民間ニ在リテ同主義主唱ノ名目ナレハ敵
党ニモ非ラストノ故ヲ以テ則請求ニ應シテ之ヲ許諾セタリ
自由党地方部會ノ議決ナリ

一去ル亦三日寧靜館ニ於テ東京地方部例会ヲ開
ク會スル者十一名其内重立タル者ハ西村玄道佐伯
剛平ノ兩人ニテ第一議原案者西村玄道地方部維持金
釀集ノ可否現在党員及将来加入スル党員一人ニ付
金一圓ヲ三ヶ月内ニ出金スル一議原案者佐伯剛平變シ第二議
ハ除名條例ヲ設クルノ可否過失アラハ忠告セシ党員トヤス可カラサル程ノ證據アラハ衆議ノ上除名ス可
レトテ兼テ條例ヲ設ケ置カサル一議變シタリ
右標領ノ概略不取敢具伸也

明治十五年四月廿四日

内第廿五号

内務卿上呈自由黨情况探偵書供
回覧候也

明治十五年四月廿八日

内閣書記官

左大臣 殿

右大臣 殿

大木参議 殿

山縣参議 殿

松方参議 殿

大山参議殿

川村参議殿

福田参議殿

佐々木参議殿

板垣退助利家之弟、復傷一件、係ん電
報支半、及大坂府外二島、有、時、下、東
御幸ノ、分、に、我、等、之、通、に、付、て、電、報、見、る

明治七年四月廿六日、内務卿山田啓義



左政大出之條、実美殿

四月十一日午十二時三十分高知発同縣令ヨリ電報
板垣退助負傷ニ付当地ヨリ岐阜へ赴キタルモ
ノ本日迄ニ八拾人計リ

同日午後第四時十分大坂発同府知事ヨリ
兒島忠里昨日岐阜ヨリ帰阪セリ然ルニ板垣負傷
ノ原由ハ在官黒田ヲサキノ指命ニ出タルモノナリ
ト疑ヒ高知ヨリ来ルモノハ頗ル忿激ノ模様アル
趣キ同志者ニ對シ密話セリ就テハ高知人刺客
ノ恐レナキニシモアツズ御注意アリタシ

同十二日午十一時十分岡山発同縣令ヨリ
板垣變動後当地自由党益々殊暴過激演説ニ

新聞ニ破壊説ヲ唱ヘ社會ノ妨害不尠夫々演説
ヲ禁シ又ハ求刑ニ及ヒタリ

同日午後第四時岐阜発派出局員六等属柴太一郎ヨ
リ

自由党高知ヨリ八拾名餘各地ヨリモ數拾名参着
シ暗殺ノ件ニ付種々ノ疑惑心ヲ起シ舉動穏ナ
ラズ其他委細ハ昨日発川侯警部長郵報ニテ
御承知アリ

同日午後第五時三十分同地発同縣令ヨリ

板垣一件本月八日同九日附ニテ貴官宛又十日附ニ
テ内務卿宛郵便差出しタリ尚追々御通知スベ
シ

同日午後六時三十五分同地発同上

昨十日岐阜新聞社員池田カキセヲ檢事ヨリ尋
問一時面置シタリ右ハ自由党ノ告発ニカ、レドモ
決シテ相原ノ連累ニハナキ見込且高知ヨリ出発
ノモノハ拾人余ノ中四拾名余ハ一昨九日着レ專ラ
連累搜索ニ熱心ス又明日明後日演説會ヲ開
ク委細ハ昨日ノ郵便ニテ上申セリ御承知アレ
同日午後第十時同地発同縣川侯警部長ヨリ

板垣ハ明後十四日当地出發大坂へ赴クヤノヨシ
シカト分シハ又御報及ブベシ西四辻侍従モ本日
着ク明朝発途ノ筈

内第之号

内務卿上申板垣退助負傷儀ニ付
電報數通

右供回覽候也

明治十五年四月十三日

内務書記官

三條太政大臣殿

有栖川左大臣殿

岩倉右大臣殿

大木参議殿

山縣系議殿
井上系議殿
松方系議殿
大山系議殿
川村系議殿
福田系議殿
佐々木系議殿

在京之長崎縣警部ヨリ立憲改進党及
社會党之情况別紙ヨリ通報告有之
候間供電覽候也

明治十五年五月八日

内務卿山田顯義



左大臣熾仁親王殿

明治三十四年四月十八日

會席に列したる才華深也之趣を以て
お成被之趣、奉供目録を呈上す也

長崎縣警務局長に白

明治三十四年四月十八日 警部野田白重一

警務局長田邊良助様

退席後、お成被之趣、奉供目録を呈上す也
一般之呈況、後、呈状を仕上す也

警部

本月十六日午後一時ヨリ在長崎ノ有志者長崎
迄東中町西勝寺ニ会合シテ改進党ノ團結ヲ計
ラント来會スル者五十三名計リトシテ左ニ記
スル所ノ事項ヲ議決シ午後六時三十分頃散會
セリ尤モ會費中氏名詳カナン者左ノ如シ

西 道仙

家永芳彦

倉田吉連

帆足集太郎

田中秀亥

上野前定

所田直澤

岸川文一郎

赤川小一郎

溝口長平

佐藤龍藏

樽井藤吉

服部信庵

松尾芳道

浦田 敬

斯波三九郎

渡辺 元

木下復七郎

平野新八郎

横田躬彦

笠原忠家

下村健藏

武富 某

敷田彦三郎

一 当日議長投票ノ上当撰者

西道仙

一 党名ヲ立憲改進党トス

一 党則草定ノ事投票ノ上立案委員ヲ設ク当撰

者斯波三九郎、家永芳彦、渡辺元、西道仙、所田直

潔ノ五名トス

一 議事規則ノ事立案委員投票ノ上当撰者倉田

吉連、溝口長平、田中秀実、松尾芳道ノ四名トス

一 松尾芳道当撰者ナレト事故アリテ至急帰

郷スル趣ナリ

一 後會ヲ開リ爲メ幹事ヲ投票ス当撰者岩川才

一郎、上野前定ハ二名トス

一 後會期日五月第二ノ日曜日トス

一 會費トシテ一人五拾錢出金ノ事

一 前項開會前ニ西道仙立テ演説ヲ爲シ其主義

ハ客年十月ノ聖勅ヲ奉ニ政黨ヲ團結シテ國會

ノ準備ヲ爲スノ意ニシテ其論説著實ナリレ由

ナリ



本月十八日西彼杵郡長崎村十善寺郷高木文章

方ニ於テ社會黨第一期同盟會ヲ開キ會スル者

樽井藤吉

横田躬彦

赤川小一郎

平野新八郎

丸尾 某

渡辺 政貴

樽井曰我輩ハ過日西勝者ニ於テ會シタル彼ノ
立憲改進黨ニハ其意得サル所アリ予カ主義ハ
左ニアラス予ハ即チ社會ノ真理ハ彼ノ魯國ノ
虛無黨ナシモノニアリ故ニ予ハ談黨ノ真理ト
スル処ヲ取りテ我社會黨ノ主義トセシ
横田曰ク天賦ノ自由ヲ以テ人間ノ權利ヲ全フ
スルハ此社會黨ニアリ人間ハ上下ノ別ナク上
天子ヨリ下庶民ニ至ルモ天ノ賦タル所同一ナ
リ故ニ社會ハ平均スルニアリ之ヲ平均セハ政
府アリスレテ可ナリ因テ其主義トスル処ハ社
會ヲ平均シ政府ヲ破壊シ天賦ノ自由ヲ全フシ
人間ノ權利ヲ保ツニアリ故ニ我輩ハ契誓シテ
以テ此主義ヲ擴張セシ然リト虽凡今卒ニ擴張

シ難キノ時勢ナルヲ以テ漸々同志ヲ結合セハ
今日ヨリ數十百年ノ内ニハ遂ニ結果ヲ得ルニ至
ラシ又此主義ヲ擴張スルニ當リテ我輩ノ性命
ヲ全フスル能ハサルハ我輩ノ期スルモノナシ
ハ主義ノ爲メ幾ルハ我輩ノ望ム所ニシテ何
ソ之ヲ避リ可シ因テ本日ヲ以テ此會ノ祝日ト
シ漸々著キシ日本ヨリ朝鮮支那ニ及ホシ亞西
亞ノ一大社會黨ヲ興起セシテ目的トスルナ
リ

會員皆之ヲ賛成ス

又曰本會員ハ驕奢ヲ制シ節儉ヲ主トス可シ凡
尾曰之ヲ施スノ方法如何
平野曰茲ニ第一期會ヲ開クト虽凡恐ラク第二

期會ニ及ホス能ハス因テ往リ所ノ時機ニ應シ
テ書生又ハ下等社會ヲ誘導シ平均ノ真理ヲ説
カハ彼ノ下等輩ノ如キ貧困ノ苦ニ堪ヘサルニ
至ラハ暴行ヲ逞フセシ此處ニ棄セハ主義ヲ擴
張スルニ易カル可シ然リト虽凡之ヲ誘導スル
ノ主義ヲ問フモノアル時社會黨ヲ以テ説カハ
恐リハ同意スルモノナケン故ニ公ニシテ差支
ナキ党名ヲ立テシ
九尾曰社會黨トシテ不可ナシ因テ施ス所ノ方
法ハ之ヲ誘導スルニ改進ヲ以テシ遂ニ真理ノ
アル社會黨ニ誘ナハシ

會員皆賛成ス

横田曰最早晩景ニ至リ主義規約ヲ定ムル能ハ

又因テ次會ニ於テ之ヲ定メシ最モ次會ハ未月
廿四日頃東光寺ニ於テ社會黨第二期同盟會ヲ
開キ談所ニ於テ主義規約ヲ定メシモ主義規
約ハ名實互ニ思想ヲ書シテ出議スルモノトセ
シ此會ヲ開リニハ十日又ハ五日目前ニ社會黨第
二期同盟會ヲ開リ事ヲ廣告セシ又此次會ニ於
テハ會員互ニ誓約ヲナサシ

會員皆賛成ス

本日ノ會議ハ此ニ於テ了ル
一横田彪彦本日帰郷シテ會期前ニ島原ノ景況
ヲ報スルノ約ヲ爲ス
一渡辺政貴ハ本日ヨリ唐津地方ニ至リテ社會
黨ノ主義ヲ説リ見込ナリ

内第七号

内務卿上申在東京長崎縣警部報告供
回覽候也

明治十五年五月八日

内務書記官

太政大臣殿

左大臣殿

右大臣殿

大木参議殿

山縣参議殿

大正
官

西郷参議殿

井上参議殿

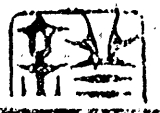
松方参議殿

大山参議殿

川村参議殿

福田参議殿

佐々木参議殿



岐阜縣令小崎利準ヨリ別紙之通電報
有之候間供電閑候也

明治十五年五月九日

内務卿山田顯義



左大臣職仁親王殿

内務省

内務省

岐阜縣令ヨリ電報ノ詔

相原尚製同類ノ疑ニテ以テ兼テ豫審
中ナル池田豊志智メソレ放免相成タ
リ此段不取敢御報知ニ及ブ委細郵便

内務省

内第八号

内務卿上申岐阜縣令ヨリノ電報供
回覽候也

明治十五年五月九日

内閣書記官

太政大臣殿

左大臣殿

右大臣殿

大木参議殿

山縣参議殿

西郷参議殿
井上参議殿
松方参議殿
大山参議殿
川村参議殿
福岡参議殿
伊木参議殿

立止

自由党本部ヨリ各地方部へ配布セシ
檄文ノ寫寄通供電閣候也

明治十五年五月九日

内務卿山田顕義

山田顕義印

左大臣職仁親王殿

代議人タル者大會ニ出京セラル、ノ節ハ其地
方部党員名簿持来被致候事

明治十五年五月

自由党本部

印

内第九号

内務卿上呈自由党本部ヨリ各地方ニ配
布セシ檄文寫供四覽候也

明治十五年五月十日
内閣書記官

太政大臣殿

左大臣殿

右大臣殿

大木参議殿

山縣参議殿

大正
正
官

西郷参議殿

井上参議殿

松方参議殿

大山参議殿

川村参議殿

福岡参議殿

佐々木参議殿

五五

大政府知事建野郷三ヨリ別紙之通
報告有之候間供電閑候也

明治十五年五月十八日

内務卿山田顕義



左大臣熾仁親王殿

9

第十九報

五月十三日

一本日午後小原鐵匠ヲ訪ヒしニ昨日松木等ト
共ニ歸坂セシ趣又全人モ松木モ上京スルニ
付可成東京行ヲ約セリ
直々ニ板垣ヲ紫雲樓ニ訪ヒしニ稍々快方ナ
ル趣竹内綱ニ面會シテ種々談話ノ末新聞起
業金ノ事ニ至ル談金ハ募金三万圓程ニ至リ
タレ其實現ニ寄リタル額ハ四千圓程ナリ
ト云フ

一大隈等結合ハ吾結合ニ合スル様子ナキヤト
尋シニ未タ其様子ナシト云フ今回報坂ノ歸京

ヲ待テ板垣ヲ招テ親睦會ヲ開キタシ杯云ヒ
居ル由ニ付彼等ヨリ合僥ヲ望ム中ハ決シ
テ亦タ拒マサレナリト

一相原ノ事ヲ聞ヒシニ如何ニモ不審ナル隙多
ク連類多分ナル由ニ聞及ヘリト目下頻リニ
探偵中

一林包明ハ岡山ニ滞在スル本日報告アリシ由
宿所ハ全所紺屋町奥加方ナル趣本日ハ全所
ニ全人等演會ヲ開キ多分兩三日内ニハ板
垣ノ答ナリト

一今回ノ會議ハ重ニ奥羽人ノ發意ニテ最早追
々上京スル趣キ多分ハ内會議ヲ開クヘシト
板垣ヨリ其身歸京セストモ開會ニ居ルヘシ

ト申遣ヒタリト亦全人ハ廿三日飯京ノ答ナ
リシカ未タ充分負傷ノ愈ヘタレニモ非サレ
ハ時宜ニヨリ次ニ延シ三十日ニナル哉モ難
計ニ付一日モ早ク上京スヘシト云フ
一本日談話ヨリ来遊ヲ依頼シ来リタレニ断然
拒絶シタリト

本日概畧如斯ニ候
右探偵書ノ候報告候也

建野方政府知事

第廿報

明治元年、比全國造酒家一統ヨリ冥加金トカ
相唱へ政府ヨリ徵集被致候金田中既納者アリ
未納者アリ又政府ノ許可ヲ得テ免納金ヲ下付
セラルタルモノアリ此事因木健三郎カ奉職中
三十萬田余國庫ニ現在ニ準備金ノ内ヘ加ヘ入
レアリタル由右ニ付全國中既納ノ分即ケ三十
萬田ヲ當時政府ヨリ下付セラルレリ酒造家
ノ一致ヲ得政府ニ請願スルノ一ヲ土居光華著
手ノ著ナリ○又明治ノ初年諸株式ヲ廢スルノ
前兵庫縣ニ於テハ當時若干金ノ徵集ニ応スレ
ハ造酒株式ハ廢セサルトノ事ニテ酒造家ハ命

ニ志し出金ナシタルアリ其翌年度ニ於テ諸
様式ヲ廢セラルベキ共ニ廢セラルタルヲ以テ出
金者ハ大ニ苦情モアリタル共其後ニテ今日迄
経過シ有之云々右ニ付植木枝盛ハ前項ト共ニ
下付ヲ乞フハ大ニ便利ヲ得ルト云フ土居亮華
共ニ負擔スル筈ナリ
中島曰ク大坂ニ居ルトキハ國會ヲ早ク開カサ
ルヲ得サル感アルト虽比田舎ヲ此度巡回シタ
ルニ今十年ノ間ニハ國會ヲ開クモ人民ノ度ニ
早シト云フモ敢テ過言ニアラスト密ニ或ル人
ト議セリ
板垣曰ク往々演説會ニ於テ暴行ノ所爲アルハ
實ニ歎息スル処ナリ如何トナレハ我々ハ言論

ヲ以テ社會ヲ感動セント欲スルトキニ斯ク乱
暴スル片ハ亦政府ハ嚴重ノ法律ヲ設ル必然ナ
リ左スレハ大ニ我々ノ目的ヲ失フ慎マズレハ
アル可カラスト

右擇便ノ從報告スル也

森野大佐府知事

內務卿上申大阪府知事報告書供
四覽候也

明治十五年五月十八日

内閣書記官

太政大臣殿

左大臣殿

右大臣殿

大木參議殿

山縣冬議殿

西郷参議殿

井上参議殿

松方参議殿

大山参議殿

川村参議殿

福田参議殿

大正
官

お誠石川品少書記官大越亭よりノ電報及
上支那品致し部長川侯正殿より到達する
預供電報別紙也
明治三十四年四月廿五日 西郷卿之田 謹啓

西郷川左大也殿

四月十六日午後第一時十分、石川縣書記官ヨリ
北陸日報ニ相原尚敷ノ兄ハ岩倉右府ノ家来ナ
レバ誰ソ彼レヲアヤツリシ者アルニ相違ナシ又勅使
ノ下向ハ右府ノ奸策ニテ刺客ノ事ナラズ公衆ノ怒
ヲ緩クセシ爲メナリト風説スレドモ記者ハ其無根ノ
説ナルヲ證ストアリ此事民心ニ障ル發行停止ニ
ナリ如何若此電信ニテツクサズハ十四日ノ新聞着ノ
上御詮議アリタシ

板垣退助負傷一件ニ付即今景況

板垣退助負傷一件去ル四月八日迄之實況
及御報告候通之次第ニ有之尚同月九日ヨ
リ本日迄ノ景況概略左之通ニ有之候事

一行兇人相原尚聚ハ全ク他ノ政黨社員ニモ無之
又同謀者尋無之由依テ早速愛知縣下知多郡
横須賀村本人寄留所及横須賀學校其他近傍
之景況搜查旦證憑物件為差押差出置候巡
査歸縣取調之顛末本人申立之通相違無之
愛知縣本籍始ノ搜查派出
眞ハ未ク歸リ報セス必竟本人性質愚直ナルヨ
リ一途ニ相迫ルモノト推測致候尚本籍始履
歴交際等同縣ハ打合專ラ搜索中ニ有之候
事

一右異変以来當地及愛知地方自由党之挙動
視察致候處刺客尚聚ナル者ノ舍弟同
姓尚室ハ現ニ有栖川左府宮ニ奉仕（一説ニ岩
倉右府公トモ唱）スル者ニテ兄弟相通シ密ニ政
府ノ意ヲ受ケテ板垣氏ヲ暗殺セントスルニ原因
シタル杯又ハ共進社岐阜日々新聞負池田豊志知縣長
嶋人當時等ト相謀リタルモノ杯種々ノ妄測ヲ以テ
諸所申觸シ板垣氏ノ旅宿ニ於テ密々談論シ或ハ
晝夜門衛ヲ張り或ハ諸方へ探偵人ヲ派遣シ各
地ノ同党へ内通スルノ景況ニ有之候事

一本月十三日岐阜伊奈波国豊座演劇同月十四
日山縣郡高富村杉本座演劇ニ於テ政談演説
會開會ノ届アリ其演題中（隱謀者カ馬

脚ヲ露ハスヲ賀ス）其要旨板垣氏ヲ歎視スルハ
果シテ奈何ナル原因ヲ有スル乎將タ主義ナクシ
テ事茲ニ及ヒタル歟ヲ辨シ彼ノ兇謀者ノ縛ニ
就キタルヲ賀シ以テ本題ノ局ヲ結フ今般ノ事件
疑惑又ハ反動力ヲ起ス等ノ演題多ク其辨士ハ
今田大坂府以下各縣ヨリ來會ノ党派又ハ當縣
同志之者加入ノ者ニ有之候事

一昨十日当縣地へ來集セシ高知縣人四十名餘本尚
日迄ニ高知縣出奔ノ者ハ十
名餘ノ旨同縣ヨリ電報アリ前顯誤解又ハ疑惑ノ点ヨ
リ壯年輩如何ノ處暴過激ノ舉動ニ及候程モ難
計人心自ラ恟々タル姿ナレトセス

一相原尚聚舍弟尚室父仙友ニ男ニシテ儀ハ（年月未詳）ヨ
リ有栖川宮へ奉仕罷在此頃中二十日間ノ賜暇ヲ以テ

本籍へ帰省三月二十九日出発帰京ニ赴キタル趣
ニ相聞申候尤其際横須賀村へ立寄タル景況無
之故恐ク、兄尚裝へ面晤不致事ト想像致候得
共猶搜索中ノ事

一當地共進社岐阜日新新聞社負池田豊志知儀ハ最前取調
候手續書ニ記載ノ通り四月六日朝同社負鍵谷
龍男当縣可兒郡久利村
旗政卓寄留尋板垣氏旅宿へ相尋候節
自由党幹事内藤魯一ニ耻カレメラレ且其次
席ニ同社負本多正直竹枝ヲ推乃へ扣居タリトノ
挙動故当日午後中院懇親會へ相臨候節ハ
必ス主義ノ異ナルヨリ討論ヲ生シ多少腕力
ヲ用ヒサルヲ得サル場合ニ至ルモ難計ヨリ共進
社負協議ノ上三十六名ノ腕力負ヲ伴ヒ臨席スヘキ

一ニ一旦決シタル処右豊志知ノ発意ニテ右様多人數ヲ
要スルニ及ハス豊志知人ニテ龍男尋ノ身上ハ急度
保護可致ト再決シ且同社負田中上善ニモ臨席
可致トノ一ニテ終ニ右三名臨席シ豊志知儀席
上ニテ反對主義ノ演説ヲ為シ大ニ自由党ヲ駁撃
シ却テ板垣ニ褒賞セラレタル杯風評スル程之
場合ニ付其際密ニ短刀ヲ懷口ニシテ罷在ノミナラス
前後ノ挙動兎角不穩ノ姿勢ニアリシヨリ全ク尚
聚同類ニ相違有之間敷旨申唱終ニ昨四月十
日夜当裁判所檢事奥宮正治宅へ同党之者滋
賀縣平民犬上郡彦根住小倉英之外二人ヨリ密ニ連署告
発ノ次第尤其中立ル處都テ推測上ノ一ニテ確
証尋ハ無之候得共尚專ラ搜索中ニ有之旦

此侯豊志知儀一應之訊問モ不致候節ハ彼党
壯年輩ニ於テ如何様ノ暴挙ニ及ブ程モ難計ニ付
証憑不十分ナカラ本日本然当地輕罪裁判所へ
引致シ一件之者共夫々取調ニ着手シ傍ラ搜
査ニ取掛申候右ハ告発ニ原因シ且前後之事情彼
党ニテハ暗殺一件ノミ着目スルヨリ前件共進社
ノ臨席豫備ノ点ヨリ考案ヲ下サス類リニ檢官
及ヒ警官ノ不注意保護ノ薄キ杯相唱其仕
儀ニ依リ彼輩ヨリ擅ニ被疑者池田豊志知ニ
對シ如何之暴挙ヲ發生スルモ計ラレス就テハ
公安保護ノ為メ旁未不十分ナカラ取計相成候
間些シク彼輩モ安堵セシ歟ト想像セリ
一相原尚聚ハ一昨九日檢事ヨリ豫審判事相

廻リ專ラ豫審中ニ有之尤監獄署ヨリ裁判所へ
呼出之節ハ心ハ板垣旅宿前ヲ押送スルニ付門衛其
他ノ壯年輩ニテ途中如何様ノ暴挙相働候モ難
計ヨリ昨十日ヨリ呼出見合豫審判事書
記并監獄署へ出張取調・右成在事
一板垣氏負傷ハ順次平愈・赴キ去ルハ日各所ノ縫
線ヲ去リ同日ヨリ旅宿ニ階ハ相移リ自身ニ階子ヲ
昇降シ便所等モ介抱ナシニ赴カレ又本日ハ処ニテ胸部
及顔面ノ疵ハ殆ト付着シタリト謂フヲ可ナルヘク只右手
拇指ト示指トノ間ノ疵ハ稍深キ故ニ未タ全ク付着セス
豫后一週間モ経ナハ全ク平愈スヘキ見込ノ旨主任醫師
當縣病院副長西川默藏ヨリ聞取レリ右同人朝夕
往診膏藥貼替ルト云初ノ一兩日ハ旧病ノ氣管炎ニ

罹り候由ナリシニ次才ニ全快身体健康ニシテ不食
等ノ一ニ無之由

一板垣氏及中嶋信行竹内綱等ニ於テ密ニ謂フ
所ヲ聞クニ今田ノ事ハ決シテ政府ノ廻シ者等ハ
無之併池田豊志知等ノ舉動ニ付テハ懇親會
前後ニ相交り候者ヨリ種々ノ儀申出十分可怪慮
有之ニ付弥尚數ノ同謀ノ有無明白セサレハ
壯年輩ニテ如何様ノ舉動ニ可及モ難計尤鎮
撫ニ苦シムヨシ或ル同縣旧知ノ者(岐阜寄留)
ニ相咄シタリト尤彼ノ檢事ニ於テ聞取タル
原由(去ル九日差出タル調書)ノ趣意右三人面前ニ
テ方便ヲ以テ何シトナク相洩レタレハ尚數ノ存
意ハ左モアルベシト申居タル由

一板垣退助長男鋒太郎十三儀昨十日着縣四
十餘名之内ニ有之同人外二人ハ板垣同宿
其他ハ近傍各旅舎ハ止宿滞在当市中横行
致居候事

一為御尋被差遣候侍従末々着縣無之定テ
明十三日着縣可相成赴ニテ相待居ル様子ニ有
之候

明治十五年四月十一日

警部長川保正名

内閣省
務
省

司法省
三七八號

名古屋控訴裁判所検事長人見恒氏在
岐阜始審裁判所長判事森壽成言ヨリ電
報別紙ノ用申出候ニ付然即内覧候也

明治十五年五月三日

大木司法卿

内閣諸公

閣下